

皆様の情報誌です。ぜひ、ご家庭にお持ち帰りください。 <http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/>



呉屋 真人

腎泌尿器外科 診療准教授

巻頭の挨拶

本年9月よりロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術(RAPN)を開始しました

腎がんは全がん患者の約3%程度とされ、尿路悪性腫瘍のなかでは前立腺がん、膀胱がんに次いで多い腫瘍です。腎がんに対しては、4cm以下の小径腫瘍においても、対側腎機能に問題がなければ全摘除術が行われてきましたが、最近は腎部分切除術による治療成績や安全面においても全摘除術と変わらないことが分かってきて、また術後の腎機能温存(慢性腎臓病発症リスク軽減)の観点からも小径腫瘍に対しては、腎部分切除術が推奨されています。しかし、開腹による腎部分切除術は術後の疼痛、社会復帰まで長期間を要するなど侵襲が大きく、術後のQOL低下のリスクが高い手術でした。1990年代より、低侵襲手術として腹腔鏡下腎部分切除術が行われるようになりました。本術式は二次元視野のもと、低可動域の鉗子を用いて手術を行うため、繊細な操作を行うことに難点が残りました。腎部分切除術の場合、腎臓の血流を一時的に遮断して腎臓の切除と縫合を行います。これらの操作に高度な腹腔鏡手術の技術を要し、開腹手術に比べ血流遮断時間が長くなり、結果、術後の腎機能低下のリスクを高める場合があります。

これに対し、RAPNは拡大3D視野を確認しながら、精密で自由度の高い鉗子で、腎の切除、縫合を行うことで、癌の根治性と術後の機能温存の両立を可能にした斬新な腹腔鏡手術です。2016年4月に、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術(RARP)についてRAPNが保険適応になると、国内でも急速にその手術件数が増加しています。ロボットアームに触覚がないことが欠点とされますが、これらの施設ではすでに多くのRARPの経験があり、腎がんに対する腎部分切除術への応用として、RAPNが導入されたものと思われます。

当科では、年間20数例の腎部分切除術を実施しており、約半数が腹腔鏡手術によります。2017年2月からはダビンチサージカルシステムTMの部分を上付きに(写真)によるRARPを開始し、1年半の運用期間で50数例の経験を得ることができました。この度、RAPNを導入することで、これまで以上に術後の腎機能にやさしい低侵襲治療を提供できるものと考えております。



■ ダビンチサージカルシステム



仲松 正司

感染対策室

「抗菌薬適正使用支援チーム (AST: Antimicrobial Stewardship Team)とは」

近年、抗菌薬(≒抗生物質)適正使用の重要性が叫ばれています。薬剤を適正に使用するの当たり前なのですが、どうして今、抗菌薬適正使用が問題となっているのでしょうか。

最大の原因は抗菌薬が効かない菌(=耐性菌)が世界中に拡散していることです。1980年代以降、ヒトや動物への抗菌薬の使用増加、ヒトに対する抗菌薬の不適切な使用を背景として耐性菌が世界中に増加し続けています。

耐性菌が増えるとどういことが起きるのでしょうか。例えば、ちょっとした皮膚の擦り傷や風邪をこじらせて肺炎にかかってしまった場合、通常であれば抗菌薬で治療することが可能です。しかし(多剤)耐性菌に感染してしまった場合、抗

菌薬での治療が効かず、命に危険が及んでしまうことが起こりえるのです。

この危機的状況に対し世界各国、日本で対策が始まっています。当院でも2018年4月から医師、薬剤師、検査技師、看護師の多職種で構成するチーム(抗菌薬適正使用支援チーム)で抗菌薬適正使用を支援する活動を開始しています。皆様が入院中に新たな感染症にかかった場合、抗菌薬を使用せざるを得ない状況になったときには、主治医と連携して、副作用や耐性菌の増加を最小限に抑え、抗菌薬の効果を最大限に発揮するような感染症の治療をサポートしていただけるように活動を行っています。

今後AST活動を通して、琉大病院に入院される皆様方の感染症診療・治療のサポートを行い、安心・安全に入院生活を送ることができるよう精一杯活動していきたいと考えています。



潮平 英郎

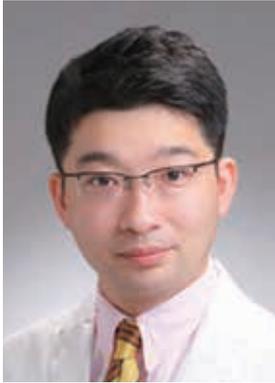
薬剤部/感染対策チーム(ICT)/
抗菌薬適正使用支援チーム
(AST)感染制御専門薬剤師

「抗菌薬適正使用チーム(AST)における薬剤師の役割」

第二次世界対戦が終結した1945年のノーベル生理学・医学賞受賞者と受賞理由をご存知でしょうか?受賞者はアレクサンダー・フレミング他2名、受賞理由は「ペニシリンの発見、および種々の伝染病に対するその治療効果の発見」でした。20世紀前半、死に至る病であった感染症は「魔法の弾丸」と呼ばれた抗菌薬の発見により治せる病へと変わりました。ところが21世紀初頭の現在、抗菌薬に対する薬剤耐性菌が国際的な脅威としてサミットの議題となり、いつしか「post antibiotic era」即ち抗菌薬登場以前の医療へ回帰した時代の到来が現実味を帯びて来ました。我が国では薬剤耐性(AMR)対策アクションプランが進められており、平成30年診療報酬改定において「抗菌薬適正使用加算」が新設されました。この様な取り組みを推進する理由とはなんでしょう?1945年のノーベルレクチャーにおいてフレミングが既にこう述べています。

～ペニシリンが商店で誰でも買うことができる時代が来るかもしれない。そのとき、必要量以下の用量で内服して、体内の微生物に非致死量の薬剤を曝露させることで、薬剤耐性菌を生み出してしまふ恐れがある。～中略～ペニシリンを使うなら、十分量を使うこと～

ASTにおける薬剤師の役割は、患者への利益を最大限得ながら、薬剤耐性菌を生み出さない「抗菌薬の使用をお手伝いすること」と考えます。更に、専門薬剤師は実務に加えて研究・教育も実践していきます。どうぞよろしくお願い致します。



片岡 恵一

歯科口腔外科 助教

顎変形症とは、顎の変形による顔貌の非対称、近遠心的変形、上下的変形などの形態変化を伴い、咬み合わせや顔貌、発音などの問題を有するものの総称です。

前歯部でうまくものが噛めないばかりでなく、発音や審美的な問題も有することがあります。また、大臼歯部(奥歯)の負担も大きく、当科での調査においても若年にも関わらず多くの歯が崩壊しているもしくは、失われている方が多く、歯の健康寿命が短いことが考えられます。正しくない上下の顎の位置で歯の治療をしても、歯への負担が変わらなければ、その歯を正しく機能させて長持ちさせることは難しいと考えられます。

当科に来院している顎変形症の患者さんの8割は下顎(下あご)が出ていて受け口になっている下顎前突、2割は、顎が左右にずれている顔面非対称、上顎(上あご)が出ていて、もしくは下顎(下あご)が著しく小さいことに起因する上顎前突、上下の前歯が当たらずに奥歯でしか歯が接触していない開咬などと色々な種類の顎変形症の症状の患者さんが来院しています。

原因は様々で、家族性に発現しやすいことが報告されているばかりでなく、舌などの周囲軟組織により成長が誘導される場合や、思春期成長以降での身長著しい増加に伴い、下顎骨(下あご)の成長が促進することにより発現する事もあります。

琉球大学医学部附属病院では、子供の頃(小学校就学前後)に咬み合わせ、顎の成長や舌の動きや発音、舌小帯の長さなどの診察を行い、将来的に顎の手術を少しでも回避できるように心がけています。

しかしながら成人に近づき、顎を切る手術を必要とする外科的矯正治療の適応になった場合は、検査にて専用の機械での咬み合わせの際の顎の動きや筋肉の強さの計測や、レントゲン、歯の模型などで診断を行ったのちに、術前に歯科矯正治療を行い、全身麻酔下にて上顎骨(上あご)および下顎骨(下あご)のいずれか、もしくは両方の顎を切る手術を行い、正常な咬み合わせをできる位置に顎を動かします。その後、術後の矯正治療により歯並びの仕上げを行い、手術後の顎の位置の後戻りがないことを確認し治療が終了します。矯正治療の期間が2～3年程度、手術のための入院が2週間程度必要となります。

琉球大学医学部附属病院は、顎変形症の外科的矯正歯科治療が保険適用される医療機関です。もし、ご自身、御身内、お知り合いなどで気になる方がいらっしゃれば、大学病院への受診をお勧めいたします。



古波蔵 健太郎

血液浄化療法部長

IgA 腎症は透析導入の原因として 2 番目に多い疾患です。病名にある IgA というのは、のどの粘膜など細菌など外敵が侵入しやすい場所で防衛を担う大事な抗体の一種でミサイルのような働きをしています。

IgA 腎症の患者ではこの IgA の不良品ができ血流によって遠く離れた腎臓で炎症を引き起こすと考えられています。患者さんの多くは検診で血尿と蛋白尿の異常を指摘され腎生検（腎臓の組織を調べる検査）と呼ばれる精密検査を受けて診断されます。以前は効果的な治療がなく多くの患者が末期の腎不全から透析に至っていました。

しかし現在、日本においては、のどの扁桃（不良品の IgA が作られる）を摘出する手術（耳鼻咽喉科で行います）と腎臓の炎症を強力に抑えるステロイドの点滴を組み合わせた「扁桃パルス療法」という非常に効果的な治療が開発され、多くの患者が透析にまで至らずにすむようになってきています。

沖縄県では琉球大学医学部附属病院で初めてこの治療が導入され、過去 15 年間に 200 例以上の治療実績があります。同じ IgA 腎症の患者でも炎症に加えて腎臓の中の高血圧が悪さをしている場合もあり、患者ごとの特徴に応じてきめ細かな治療戦略を立てています。このようないわばオーダーメイド的な治療によりほとんどの患者さんで血尿や蛋白尿が出ない状態（寛解）にまで改善させることができます。比較的若い患者さんの場合、約 6 割は尿検査が完全に正常化した後は特別な治療や厳しい食事療法など不要になり実質的に治癒した状態にまで回復しています。

中高年以降の患者でもよほど腎機能が低下していなければ多くの患者で透析に至るリスクを回避できます。また、他の病院で、もはや治療は困難だとされた例でも尿検査が正常化し腎機能の悪化を防げた症例も少なからず経験しています。

経過が長いため、就職、進学、結婚、妊娠など個別に将来を見据えて治療方針を決めることが重要な病気です。今後は沖縄県の IgA 腎症による「透析導入ゼロ」を目指して、関係機関とネットワークを構築しより多くの患者さんに扁桃パルス療法を中心とした個別化治療を受けていただける仕組みを作っていきたいと考えています。

（注意：すでに透析をうけている患者さんでは扁桃パルス療法をうけても腎機能が回復する事はありません）

● 問合せ先 第3内科医局まで
電話 098-895-1150 FAX098-895-1416

玄米カフェは、美食と、健康と美容の両立を目指す方のトータルソリューションプロバイダーを目指して平成29年11月に、琉球大学医学部附属病院3階にオープンしました。

当店の健康と美容の提案の基本は、現代人に不足しがちな微量ミネラルの適正摂取、過剰な糖質の摂取やGI値の高い食事の見直し、適切な運動です。

飲食事業のリアル店舗で皆様との直接の接点の場を持たせて頂き、美味しい食材の提供のみならず、皆様のダイエットや健康上のお悩みを全力でサポートさせていただきます。

是非、美と健康のよろず相談所、玄米カフェにお立ち寄りください。

玄米カフェの玄米カレーや玄米おにぎりは、精米事業を営むグループ会社が厳選した玄米を、愛情と時間をたっぷりかけて炊き上げた発芽玄米ご飯です。

是非、玄米カフェの美味しい玄米、食べに来てください！玄米の販売もさせて頂いています。

玄米カフェでは、海藻など海の生物由来の身体に吸収されやすいミネラルを調理に使用し、皆様の腸内が健やかな環境になって頂くお手伝いをさせて頂いております。

玄米カフェのカレーは、琉球大学農学部ホサイン教授が開発した「クルクミン」という抗酸化物質が世界一高いウコン「琉大ゴールド」を使用しています。その他のスパイスも沖縄の特性を活かした地産をどんどん取り入れるべくチャレンジしています。



益崎 裕章

内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座（第二内科）
教授 栄養管理部長

食は人を良くする！

玄米食を活用して健康長寿を実現しませんか

琉大病院に玄米カフェがオープンし、好評を戴いていることを大変嬉しく思います。来院される皆様、琉大病院職員の皆様の健康維持・増進に貢献することを期待し、素敵な企画を実現して下さいました病院長の藤田次郎教授をはじめ、関係各位の皆様の御尽力に敬意と感謝を表します。

私達、第二内科では食のパワーを活用して生活習慣病を予防するというユニークな研究を行っています。その過程で明らかになってきた成果の一つが玄米の持つ優れた肥満改善効果、糖尿病予防効果です。玄米の糠（ぬか）という漢字はコメに健康の康と書きます。一方、コメが白（米）になると粕（カス：何も残っていない！）という漢字が当てられています。玄米の糠の部分には多彩な機能成分が豊富に含まれているのですが、白いお米では、それらが全部失われてしまいます。マウスを用いた私達の研究から、玄米にたっぷり含まれている“ガンマ・オリザノール”という機能成分が脳に働くと、コッテリとした高カロリーの動物性脂肪を食べたいと思わなくなり、食の好みがあっさり系にシフトすることが判明しました。さらに、膵臓に働いて血糖値を低下させ、腸内フローラのバランスを改善して肥満や脂肪肝、便秘の改善にも抜群の効果を発揮します。これらの効果は人間でも同様であることがわかりました。

食という漢字は“人を良くする”と書きます。忙しいから、面倒だからと、ファストフードに依存し過ぎると本当にメタボや糖尿病になってしまいます！是非、玄米カフェを上手に利用して戴き、皆様の健康長寿に御役立て下さい。ちなみに、私も毎日のランチは必ず玄米カフェにしています。

イベント1

「高校生医療者体験」「KID'SSIM」を開催しました

おきなわクリニカルシミュレーションセンター

沖縄県の支援を受けて本学構内に設置されたおきなわクリニカルシミュレーションセンターでは、沖縄県で医療を受ける皆様がより安全で高度な医療を受けられるように、医療現場を再現した部屋や人形などを使った教育（シミュレーション教育）を提供しています。県内全域の医療を学ぶ学生から、卒後教育に至るまで、幅広い学習段階と職種の方々に活用していただいています。当センターでは子どもたちに医療と琉球大学をより身近に感じてもらうために、開設以来毎年小学生および高校生を対象とした体験イベントを開催して参りました。2018年は8月1日に小学生向けKid's Sim、8月2日に高校生向け医療者体験を開催し、それぞれ40名、29名の参加者が集まりました。

小学生は体の機能のうち「食べる」「どきどきする」「いきをする」「うまれる」の4つの学習項目について、体内の構造模型やバーチャルリアリティ技術を用いた再現装置で視覚、聴覚、触覚で体験しました。

高校生は「診察体験」「心肺蘇生体験」「高機能シミュレーター体験」の3つのブースを回って、聴診器などの診察道具や手術器具を触ったり、心肺蘇生や高度な医療機器を体験したりしました。



■ 小学生向け Kid's Sim 体験の様子



■ 高校生医療者体験の様子

イベント2

平成30年度 「第26回ふれあい看護体験」

総務課

平成30年7月25日(水)と7月26日(木)に、本院病棟にてふれあい看護体験が行われ、県内の高校から両日併せて68名が参加しました。

この体験イベントは、「患者さんとのふれあいを通して、看護することや命について理解と関心を深めること」を目的としており、今年で26回目を迎えます。

当日は、参加時の注意事項の説明及び看護部長からの挨拶のあと、午前中は2～3名のグループに分かれて各病棟の看護師と一緒にシーツ交換や車椅子での搬送、昼食の配膳などを行いました。午後は高齢者の

模擬体験をしました。視覚や聴覚、指先の感覚の違いの中で「歩く」「袋を開ける」等の何気ない動作の困難さを認識し、高齢者に対する理解が深まったようです。

この体験を通して看護師の仕事に興味を持ち、将来一緒に働ける方がいらっしゃることを願っております。

専門外来診療日割表

※曜日枠に赤まる●が付いた曜日が外来診療日となります。外来の際にご確認ください。

※診療受付時間は午前8時30分から午前11時まで、診療開始時間は午前9時です。予約がある場合は、その限りではありません。平成30年11月1日現在

診療科	専門外来	月	火	水	木	金	備 考	
第一内科	感染症内科	●	●		●	●	新患は要紹介状	
	呼吸器内科	●	●		●	●	新患は要紹介状 肺腫瘍：火・金曜日	
	消化器内科(消化管)	●	●		●	●	新患は要紹介状、要予約 糞線虫外来：木曜日	
	" (肝臓)	※	●		●	●	新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約) ※月曜日午後：B型肝炎訴訟診療(要予約)	
	" (胆道・膵臓)	●					新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約)	
第二内科	膠原病・リウマチ内科		●	●			糖尿病外来は専用フォーム有 (月曜日は、院内入院糖尿病患者の紹介のみ)	
	血液内科(骨髄移植外来含む)		●	●		●		
	成人T細胞白血病 リンパ腫(ATL)外来		●			●		
	肥満症(生活習慣病)		●	●		●		
	糖尿病・代謝内科	●	●	●		●		
	インスリンポンプ外来(CSII/SAP)		●	●		●		
	内分泌内科		●	●		●		
	骨粗鬆症・男性更年期(LOH) 女性医師による女性外来	●	●	●		●		
第三内科	脳神経内科	●		●	●	●	新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約)	
	高血圧・腎臓内科	●		●	●	●		
	高齢内科	●		●	●	●		
循環器科	循環器内科	●		●	●		新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約)	
第一外科	上部消化管外科	●		●			新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約) (乳幼児、学校健診も含む)	
	下部消化管外科肛門外科	●		●	●			
	肝胆膵外科	●			●			
	乳腺・甲状腺外科	●		●				
	小児外科	●		●			小児外科は午後のみ	
第二外科	呼吸器外科		●			●	新患は要紹介状 呼吸器外科：院内紹介は事前に電話相談	
	心臓血管外科		●			●		
	ス Tent 外来		●			●		
	血管外科		●		●	●	血管外科：原則要予約(医療福祉支援センター・内線1371で予約) 木曜日は、再来予約のみ	
脳神経外科	一般・腫瘍	●		●		●	新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) 他院・他科からの紹介・予約患者は10時~11時に受付 院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約、院内からの紹介は脳外科外来受付(月・水・金)内線1307で予約 緊急を要する患者は医局1171または病棟3801へ連絡し当日の当直医(担当医)が対応します。	
	脳血管障害	●		●		●		
	新患・再来	●		●		●		
	神経心理	●		●		●		
	ニューロリハビリ	●		●		●		
整形外科	手外科	●		●		●	新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約) ※手外科外来は、午前のみ ※水曜日のリウマチ外来は、午後予約のみ	
	リウマチ	●		●	※	●		
	骨・軟部腫瘍	●		●		●		
	脊椎・脊髄	●		●		●		
	股関節	●		●		●		
	スポーツ医学(膝)	●		●		●		
	骨粗鬆症	●		●		●		
小児整形	●		●		●	※乳児股関節の精密検査は要予約 整形外来内線1301で予約		
形成外科	新患・一般再来		●		●		新患は要紹介状 ・眼瞼下垂は、火曜日・リンパ浮腫は、木曜日	
産科婦人科	新患	●		●		●	【婦人科・生殖不妊・内分泌・骨粗鬆症】 新患は、要紹介状、要予約(院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約) 【産科】紹介状有りが望ましいが、科の特殊性として紹介状なしでも診察します。 ※火曜日・木曜日：予約再来のみ 不妊症は要紹介状	
	産科	●		●		●		
	婦人科	●	●	●	●	●		
	生殖不妊・内分泌・骨粗鬆症	●		●		●		
小児科	新患・一般再来	●		●	●	●	新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約)	
	腎臓	●			●	●		
	内分泌			●	●			
	遺伝・先天代謝異常			●				
	神経	●			●			小児循環器専門医は不在
	新生児	●				●		
	血液(移植外来)	●			●	●		
膠原病	●				●			
皮膚科	皮膚科		●		●	●	新患は要紹介状	
	皮膚科		●		●	●		
	乾癬		●		●	●		
	強皮症・皮膚筋炎		●		●	●		
腎泌尿器外科	腎泌尿器外科	●	●			●	新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は、医療福祉支援センター・内線1371で予約) (乳幼児、学校健診も含む)	
	再	●	●			●		
	小児泌尿器外来	●				●		小児泌尿器外来：月曜日午後(予約再来のみ) ：金曜日午前(新患のみ)
	腎移植外来 (午前新患) 腎移植外来 (午後再来)	●				●		腎移植外来：午前は新患のみ、午後は再来
耳鼻咽喉科	新患	●		●	●		新患は要紹介状 院内紹介は、電子カルテ上の紹介枠での予約必要	
	甲状腺・頭頸部腫瘍	●		●	●			
	鼻副鼻腔・アレルギー	●		●	●			
	中耳炎・難聴・めまい・顔面神経	●		●	●			
	人工内耳	●		●	●			
	幼児難聴・補聴器	●		●	●			
	口腔咽喉頭・唾液腺	●		●	●			
	音声・嚥下	●		●	●			
	頭部工コ一外来	●		●	●			
	アレルギー・免疫治療外来	●		●	●			アレルギー・免疫治療外来：予約再来のみ

専門外来診療日割表

※曜日枠に赤まる●が付いた曜日が外来診療日となります。外来の際にご確認ください。

※診療受付時間は午前8時30分から午前11時まで、診療開始時間は午前9時です。予約がある場合は、その限りではありません。平成30年11月1日現在

診療科	専門外来	月	火	水	木	金	備考
眼	緑内障	●		●			
	小児眼科			●			
	網膜硝子体		●			●	
	角膜		●				
	神経・腫瘍・ぶどう膜炎		●	●			
一般再		●	●	●			
精神科神経科	新患		●			●	新患は予約制 (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約) (医療機関からの申込みに限る)
	一般再		●			●	(院内他科通院中の方は当科外来受付・内線1306で予約) ※紹介状も必要です。
	児童・思春期外来	●					「光トポグラフィ外来」の予約、申込みは紹介元医療機関から 医療福祉支援センター Fax (098-895-1498) にて
認知症疾患医療センター	もの忘れ診断外来		●			●	新患は要紹介状 原則予約制。予約は認知症疾患医療センター：895-1765
	放射線診断・IVR			●		●	新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は医療福祉支援センター内線1371で予約)
放射線科	CTガイド下・PVP			●		●	他院画像読影依頼は、放射線科医のいない医療機関の取り込み画像のみ可(フィルムは不可)
	甲状腺・RI			●			
	放射線治療	●	●	●		●	※月曜日は緩和治療中心。要事前連絡、院内紹介のみ (連絡先：①4255 ②4571 ③4862) 重粒子線治療相談外来は水曜日のみ
麻酔科	麻酔科	●		●		●	新患は要予約(医療機関からの申込みに限る)
	ペインクリニック	●		●		●	(院外からの紹介は医療福祉支援センター内線1371で予約)
歯科口腔外科	新患・一般外来	●	●	●	●		新患は要紹介状
	口唇・口蓋裂	●					新患・一般外来：月～木曜日
	顎変形症	●					
	腫瘍	●	●				
	顎関節症					●	
口腔ケアセンター	●	●	●	●			
リハビリテーション部	リハビリテーション科	●	●	●	●	●	・リハ新患は、月～金(月曜日は検査優先・金曜日は要電話) ・リハ対象者は、入院患者のみ。以外は電話で要相談。 ・痙攣治療外来：第1・3金曜日の午後(院内紹介のみ) ・心大血管リハ新患は、院内入院患者のみ。(月～金)
心大血管リハ	●	●	●	●	●		
高気圧治療部	高気圧治療部	●	●	●	●	●	新患は要紹介状・要連絡(内線3290・4732)
血液浄化療法部	血液浄化療法部	●	●	●	●	●	土曜日、祝日通常体制 夜間・日曜日はオンコール体制
地域医療部	地域医療部	●	●	●	●	●	※新患は原則要紹介状(院内紹介は文書入力にて紹介状記載)
総合診療センター	総合診療科部門	●	●	●	●	●	総合診療科部門は午前のみ※外来患者のみ ※新患は原則要紹介状
	禁煙外来		●	●		●	火・水・金曜日の午前中・予約制 ※当院通院中の外来患者のみ
	漢方外来					●	第3金曜日の午後のみ ※事前予約が望ましい
がんセンター	ワクチン外来(感染対策室)			●		●	火・金曜日の午後のみ(インフルエンザワクチンを除く) 予約制。予約は総合診療センター・内線1310で予約 (予約受付時間：月～金曜日の14時～16時まで)
	緩和ケア外来(身的緩和部門)	●	●	●	●	●	新患は要紹介状(火・木曜日は予約制)
がんセンター	緩和ケア外来(精的緩和部門)		●				
	がん看護外来	●	●	●	●	●	月・火・木・金曜日(12:00～16:00)水曜日(12:00～14:00) ※事前予約が望ましい(内線1311)で予約
救急部	救急部	24時間診療					

本院の理念及び基本方針

理念

病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、国際性豊かな医療人を育成する。

基本方針

1. 生命の尊厳を重んじた全人的医療の実践
2. 地域における保健・医療・福祉の向上に対する貢献と関係機関との連携
3. 先端医療技術の開発・応用・評価
4. 国際性豊かな医療人の育成

患者さんの権利と責務について

琉球大学医学部附属病院では、患者さんを中心とした「安全・安心・思いやり」に基づくより良い医療を目指しております。患者さんとの深い信頼関係の上に成り立つ医療の大切さを十分に理解するとともに、患者さんには一人一人に次のような権利と責務があることを確認いたします。

●患者さんの権利●

1. あなたは、どんな場合でも、一人の人間として大切に扱われる権利があります。
2. あなたは、どのような境遇、環境であっても、専門家による平等で良質な医療を受ける権利があります。
3. あなたは、病気のことや治療について十分に教えてもらう権利があります。
4. あなたは、治療について意見を述べる権利と選択できる権利があります。
5. あなたは、あなた自身の話したこと、病気、身体について、知られたいことを守られる権利があります。

●患者さんの責務●

1. 最善かつ適切な診療を行なうために、あなた自身の健康状態についてできるだけ正確に伝えてください。
 2. 主治医や担当医の治療や退院計画に主体的に取組み協力してください。
 3. すべての患者さんが適切な医療を受けられるように、病院の規則に従い、医療の妨げとならないように協力してください。特に攻撃的な態度や暴言、乱暴な行為は謹み、施設の所有物を大切に使うようにしてください。
- 平成22年8月制定 平成29年2月13日一部改正



本院までの交通機関

- 那覇バス 所要時間：那覇バスターミナルより本院まで約50分
- 97番 琉大線
- 経路：那覇バスターミナル～牧志～儀保～琉大病院前～長田～中部商業高校前～琉大北口
- タクシー・乗用車での所要時間
- 那覇市街より約25分 ●沖縄市街より約20分
- 那覇空港より約35分 ●モノレール首里駅から10分
- ※モノレール儀保駅からバス(97番)で30分

附属病院 ホームページが携帯サイトからも閲覧できます。



ボランティア募集

本院では、一般の方からの病院ボランティア(外来ロビーでの案内・補助等)を広く募集しております。空いている時間を利用して、一緒に参加してみませんか？まずはお気軽にご連絡ください。【連絡先】総務課(098-895-3331(内線：1006))

琉球大学医学部附属病院

http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/

電話(098)895-3331(代表) 医療福祉支援センター(内線1371)

〒903-0215 沖縄県西原町字上原207番地

HOT LINE

8